

令和2年度 鳥取市中堅教諭等資質向上研修アンケート調査結果

アンケート調査の趣旨

鳥取市では、本市教育の最重要課題である不登校や問題行動等の未然防止・学力向上に向け、特別支援教育の視点を基盤にした研修を実施しています。

鳥取市教育センターは「研修で学校が変わる」を合言葉に、中堅教諭等資質向上研修を核として複数のキャリアステージや職務とのコラボ研修を実施し、効果的に研修成果を学校運営に活かすマネジメントサイクルの確立を図っています。

本アンケート調査では、鳥取市中堅教諭等資質向上研修対象者が研修したことを校内で協働しながら実践に活かし、研修成果を還元している状況を把握するとともに、今後の研修企画の資料とすることを目的としています。

※アンケート期間 令和2年12月14日～令和3年1月14日

※アンケート対象 中堅教諭等資質向上研修対象者22名（20校）

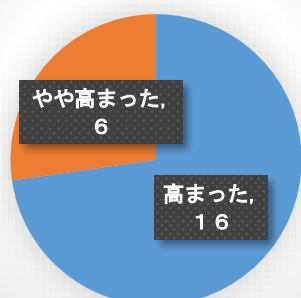
考察と展望

（○：成果、▲：課題、◇：展望）

- 中堅教諭等資質向上研修を受講したことで、ミドルリーダーとして、学校運営に積極的に参画しているとする意識の高まりがうかがえるが、「やや高まった」という回答もあるため、まだ十分ではないと思われる。
- 昨年度に比べ、協働推進者として管理職とあげている割合が増えた。これは、学年会や小グループでの報告にとどまらず、研修内容をどのように学校に還元するのかを管理職まで報告・相談している様子がうかがえた。
- 今年度は6回の校外研修のうち第2～5回がWeb会議による遠隔研修であった。そのため、欠席した受講者も後日オンデマンドで研修を受講できるようにした。研修を受講した者も後日改めて動画を視聴することもできたことで、校外研修の有効度が高かったと思われる。
- ▲今年度はWeb会議を活用したことにより、受講後の情報交換の機会が取りづらかったことで受講者同士が研修内容の理解を深め合ったり、実践に向けたイメージが持ちづらかったと思われる。
- ◇研修の際にはWeb会議による遠隔研修でも、チャット等で受講者同士の情報交換を促進し、実践に向けた意識を高める。
- ◇今年度は研修内容を学年会や部会等の小グループで伝達している割合が増えた。放課後の時間確保が難しい中、時間を見つけて伝達するためと考えられる。小グループでの取組により、伝達するだけでなく議論も生まれ、より校内へ還元する具体的アイデアに結び付いた実践もあった。今後は、「Myアイデアシート」等を活用して更なる学校力アップのための推進力を高めたい。

（1）研修受講者の学校運営参画意識の変化

学校運営参画意識



<回答内容> (昨年度)

高まった……16人 (14人)

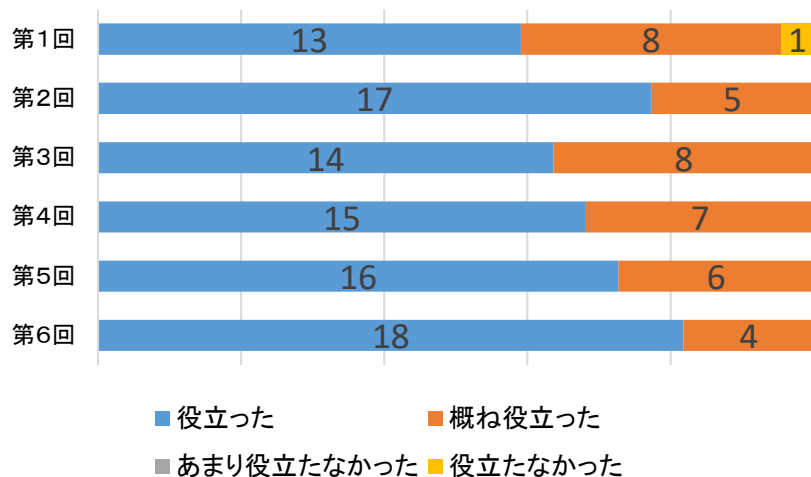
やや高まった…6人 (2人)

<考察>

- ・中堅教諭等資質向上研修を受講したことで、ミドルリーダーとして、学校運営に積極的に参画しているとする意識の高まりがうかがえるが、「やや高まった」という回答もあるため、まだ十分ではないと思われる。

(2) 学校課題解決の取組に活かす校外研修の有効度

学校課題解決に活かす校外研修の有効度



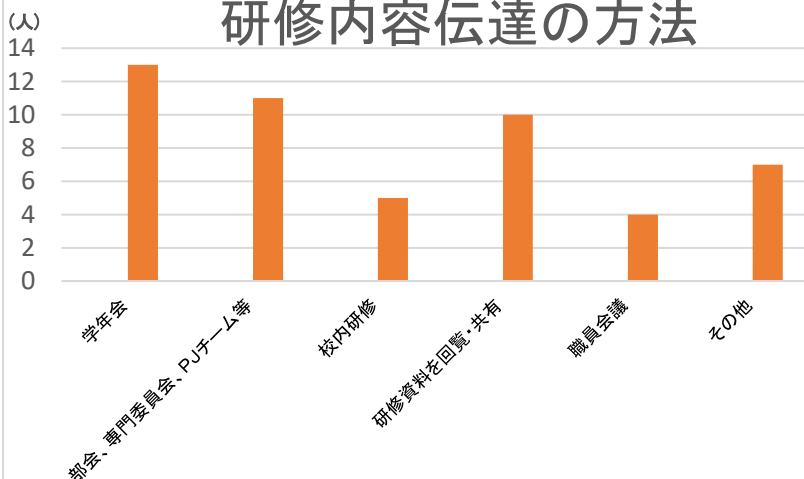
＜回答内容＞※複数回答可
 役立った…第1回：13人
 第2回：17人
 第3回：14人
 第4回：15人
 第5回：16人
 第6回：18人

＜考察＞

・各校外研修の研修内容は、学校課題に対してどのように活用するのか個々で考え、活かされている。

(3) 研修内容伝達の方法

研修内容伝達の方法



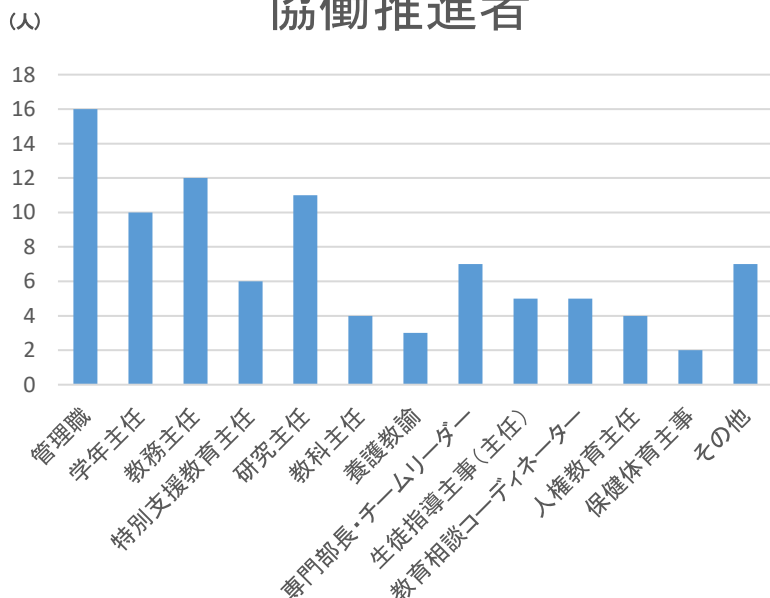
＜回答内容＞ ※複数回答可 (昨年度)
 学年会…………… 13人(10人)
 部会、専門委員会等… 11人(7人)
 校内研修…………… 5人(6人)
 研修資料を回覧・共有… 10人(6人)

＜考察＞

・学年会や部会・専門部会等で、研修内容の報告・伝達及び話し合いを行うことで、より校内での教育活動に還元できるようにしている。

(4) 研修内容を学校課題解決に活かす協働推進者

協働推進者

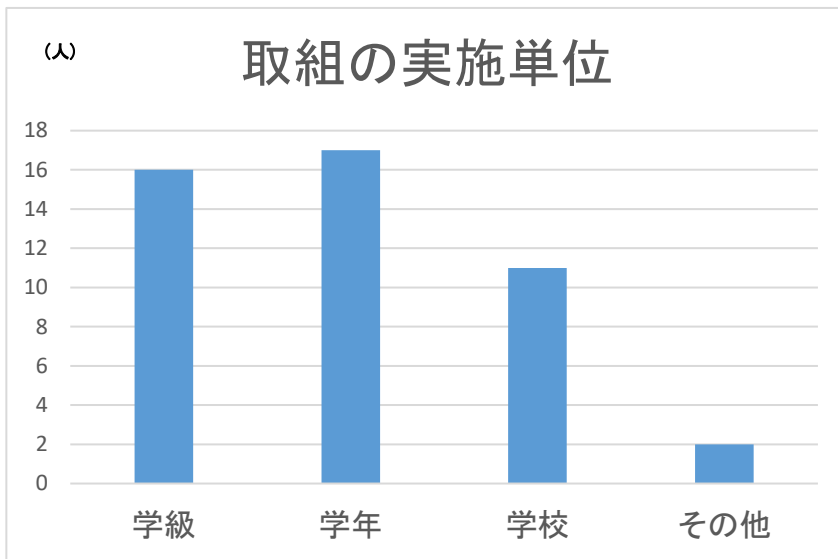


＜回答内容＞ ※複数回答可 (昨年度)
 管理職…………… 17人(10人)
 学年主任…………… 10人(10人)
 教務主任…………… 12人(9人)
 特別支援教育主任… 6人(9人)
 研究主任…………… 11人(7人)

＜考察＞

・管理職に研修内容を報告し、研修で学んだことを校内での取組に活かせるよう相談していることがうかがえる。
 ・教務主任や研究主任と連携することで、全校での組織的な取組につなげようとしていることがうかがえる。

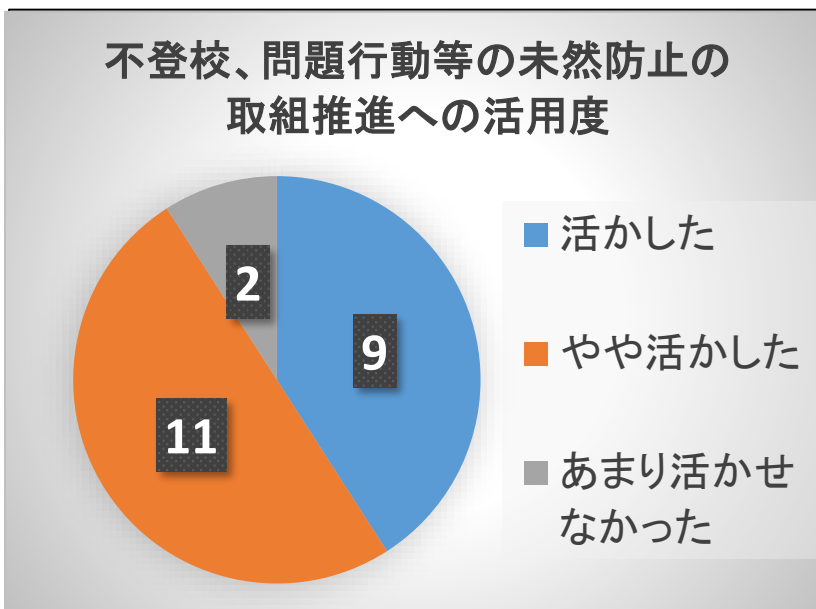
(5) 研修内容を学校課題解決に活かす取組の実施単位



<回答内容> ※複数回答可 (昨年度)
 学年…17人 (12人)
 学級…16人 (12人)
 学校…11人 (8人)

<考察>
 ・研修で学んだことを、まず学年や学級で活かして取り組んでいたことがうかがえる。

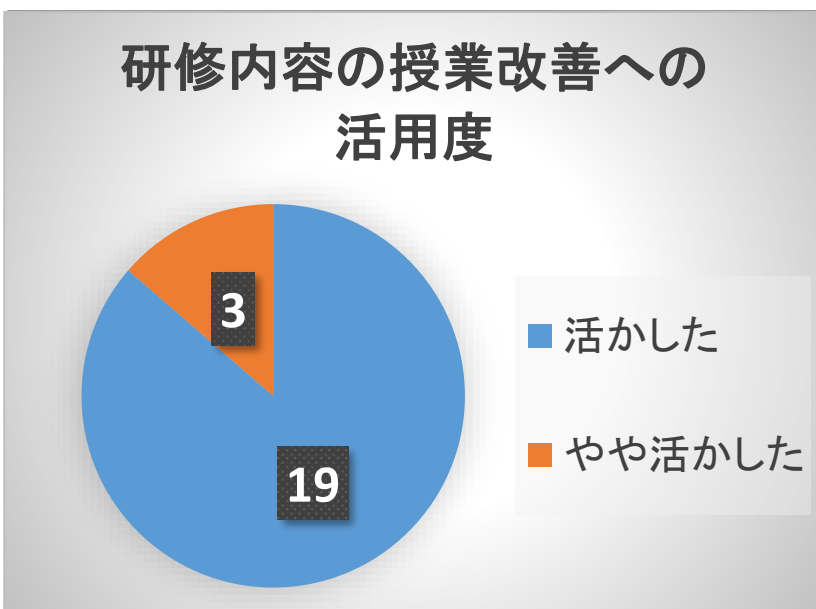
(6) 研修内容の不登校・問題行動等の未然防止の取組推進への活用



<回答内容> (昨年度)
 活かした……………9人(8人)
 やや活かした……………11人(7人)
 あまり活かせなかった…2人(1人)

<考察>
 ・研修での学びは、不登校、問題行動等の未然防止の取組に活かそうとしているが、まだ実感を伴う結果が表れていないと考えられる。

(7) 研修内容の授業改善への活用度



<回答内容> (昨年度)
 活かした……………19人(10人)
 やや活かした…3人(6人)

<考察>
 ・全員が肯定的に回答している。第2回の研修で学んだことを、中堅教諭が日常の授業改善につなげて、全校での取り組みに還元しようとしていることがうかがえる。

(8) 研修内容を学校課題解決に活かす取組の具体的内容

| ①どのような取組を行いましたか。 | ②取組によってどのような効果がありましたか。 |
|--|--|
| 不登校、問題行動等の未然防止の取組推進 | |
| <p><回答内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチームメンバーに学級で行っているポジティブ行動支援を紹介した。また、メンバーそれぞれが行っている取り組みも共有することができた。 ・よりよい人間関係づくりや自己肯定感を高めるために、学年でポジティブ行動支援の取組を取り入れ、マトリクスを作成した。 ・自校や中学校区でポジティブ行動支援の取組を行うために、保護者からのコメントをポジティブな内容にしていこうと呼びかけた。 ・ケアギバーの視点をもって接すること、他の支援者と役割をもちながら連携していくことなどを確認しながら対応している。 ・自分自身がメディエーターの役割を行うなど、ピア・サポート、ピア・メディエーションの考え方で生徒に接することを心がけた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士のトラブルが減るだけでなく、人との関わり方、特に他学年との関わり方が上手になり、自信をもって全校をリードすることができるようになった。 ・ポジティブ行動支援により、子ども同士がつながり、認め合う共感の雰囲気広がることで、協同学習の取り組みの効果もより見え始めた。 ・学校保健委員会や中学校区生活習慣向上部会での話し合いで提案し、共通実践につなげた。 ・支援者同士の情報共有や連携がスムーズになり、対応が早く、適切に行えていると思う。 ・「生徒達と共に解決していく」という考え方に変わった。生徒自身がメディエーターとなるまでは難しかったが、「自分たちで」という意識が少しずつ出てきた。 |
| 授業改善 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研修主任として研修内容を全体に提案し、一人一人が様々な考えが出し合える授業づくりに向けた取組に行った。 ・キャリア教育の研修内容を、要点をまとめて全職員に紹介し、自校で取り組んでいるキャリア教育の内容を再確認した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究会だけでなく、研修だより等を活用して、共通理解し、今後の授業改善の方向性が定まった。 ・キャリア教育で活用する資料やワークシートを作成する際のポイントや指導者のコメントを添える等の具体的な実践について共通理解した。 |
| 中堅教諭を核とした校内OJTの推進 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチームの一員として、初任者の支援を行っている。メンターチームの若手教員と協働して取り組む中で、これまでの知見に加え、研修で学んだことも活かして支援をし、校内OJTの推進を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員は、日常的に指導方法や学級経営を見ることで、自身の実践に活かすことができた。指導で悩んでいた時期に、どういう視点で自分の授業を振り返るのかを教えてもらったことで自分の課題に気づくこともできた。 |

<考察>

- 多くの中堅教諭が、研修で学んだことを自分の学級や学年、学校等の取組に取り入れて実践し、児童生徒のよりよい人間関係づくりに役立てている。
- 職員会議や職員研修で、集合研修で学んだ内容を全教職員に伝える機会を設けることが難しかった中で、中堅教諭が中心となり小グループ（学年会、部会、プロジェクトチーム等）で伝達・協議を行うことで、校内OJTを推進するとともに、学校課題解決に向けた力となった。
- ◇来年度は、中堅教諭がよりメンターの役割の意識を高く持ち、ミドルリーダーとして若手育成に積極的に関わっていけるように、校内研修における若手教員との連携をより充実させていく。
- ◇校内のミドルリーダーとして、研修で学んだことを活かしながら自校の教育目標や学校課題に対して主体的に関わる力を身に付け、学校運営参画意識を高めていけるような研修の在り方を考えていく。

(資料)

令和2年度鳥取市中堅教諭等資質向上研修の研修内容について

| | 研修内容 | 研修講師 | 備考・コラボ等 |
|-----|--|-------------------------|--|
| 1回目 | 中堅教諭等資質向上研修のガイダンス | 鳥取市教育委員会 指導主事 | オンデマンド |
| 2回目 | ○一人一人の子どもの学びを大切に した子ども主体で学び合う授業づくり ○協同学習の視点で「魅力」と「徹底」に迫る授業改善 | 岡山大学 教授 高旗 浩志 | 6年目研修 |
| 3回目 | ○愛着形成に関する基本的な考え方と支援の在り方 | 大正大学 教授 玉井 邦夫 | 特別支援教育ステップアップ研修 特別支援教育支援員研修(選択) 学校司書研修(選択) |
| 4回目 | ○児童生徒一人一人を大切にするための 応用行動分析の基本的な考え方 ○学校全体で取り組むポジティブ行動支援 | 大阪樟蔭女子大学 准教授 田中 善大 | 特別支援教育ステップアップ研修 特別支援教育支援員研修(選択) 学校司書研修(選択) |
| 5回目 | ○子どもたちのよりよい人間関係を育む ピア・サポート ○自治力育成につながるピア・メ ディエーションの活かし方 | 日本ピア・サポート学会 会長 池島 徳大 | 6年目研修 |
| 6回目 | ○学校の特色を活かしたキャリア教育の 全体計画 ○キャリア・パスポートの実際 | 鳥取市教育委員会 指導主事 | 16年目研修 |